

新島 襄の言葉

深山大沢生龍蛇

富田 正樹（香里中学校・高等学校教諭）

「深山大沢、龍蛇を生ず」とは、中国の古典の一節に基づいた、新島襄晩年の愛唱句です。新島は学生を型にはめるのを嫌い、規則はできるだけ「法三章」ですませ、「小魚」も「大魚」も自在に泳げる「深山大沢」を理想としました。新島は自分が創ろうとしていた大学を「深山大沢」にしたかったようです。（本井康博『新島襄を語る（二）千里の志』思文閣出版、2005、117頁〜129頁）

いま同志社にとって、自由というものがこれほど問われている時期は昨今なかったのではないかと思われています。教育基本法が改定され、教育関連三法案が可決されてしまった現在、私たちの自由教育は、権力の介入の危機にさらされていると言えます。同志社がどこまで深山であることができるのか。どのようにして権力の介入に対して大沢であることができるのか。どのようにして自由を守り、龍蛇を生じせしめるのか。あるいは、新島が別の機会に語ったように、この世間の苦い水を甘くするべき使者を輩出できるのか。

私たちは大変な挑戦を受けているのだと感じています。

